昔は―、
自然の中で、
自由に遊んでいた子どもがいた。
地域で親子が育ち合っていく
風潮があった。
高度経済成長期に働く父親は、
育児に関わらなかった。
近所に子どもを叱ってくれる人、
預かってくれる人がいた。

今は―、
子どもたちに安全で安心な遊び場
を提供することが必要になった。
親が学ぶ場所が必要になった。
お父さんは、育児に協力的だ。
でも、近くに頼れる人がいない。

今も昔も変わらないのは、
子どもの純粋な笑顔。

今と昔を知ってこそ、
上手な子育てができる。
私たちが進んでいる道は、
昔からつながっているのだから。

大津町の人口

	平成２年	平成７年	平成 12 年	平成 17 年
0～6 歳	2,392	2,319	2,268	2,153
0～12 歳	4,483	4,661	4,347	4,142
65 歳以上	3,500	4,296	5,047	5,553

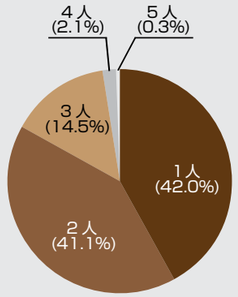
大津町の出生数

平成２年	平成７年	平成12年	平成17年	平成21年
322	310	296	289	352

平成 21 年　合計特殊出生率

大津町	菊陽町	合志市	菊池市	熊本県	全国
1.72	1.75	1.71	1.69	1.59	1.37

合計特殊出生率とは…
女性が出産可能な年齢を 15 歳から 49 歳までと規定し、それぞれの出生率を足し合わせて表される「一人の女性が一生に産む子どもの数」の平均率のことです。



18 歳未満の子どもがいる世帯

子どもの数	世帯数
1 人	1,502
2 人	1,470
3 人	519
4 人	74
5 人	10
6 人	0
合計	3,575

平成21年12月31日時点

大津流の子育ての考え方
オーエンズ（OANS）

オーエンズは、
Ozu（大津）**A**ngel（エンジェル）**N**etwork（ネットワーク）**S**quare（スクエア）の頭文字をとったもので、大津町の地域一体となった取り組みの通称として使用しています。

温子知親

昔を知り、今を知れば、子育てに必要なものが見えてくる

「子育て日本一の町」

平成15年、国は新たな子育て支援のために「次世代育成支援対策推進法」を制定しました。これにより、自治体と各事業主は、行動計画を作り、子育て支援対策の推進を行うことになりました。

大津町は、「日本一子育てに夢がもてるまち」を目指し、平成16年、全国に先駆け、次世代育成支援行動計画「おーえんずアクションプラン」を策定しました。多くの施策に取り組み、町内外の人からも「大津は子育てがしやすいまち」といわれるようになりました。

アクションプラン前期計画（平成16年～21年）の中での大きな取り組みは、「子育て支援課」の設置と「大津町子育て・健診センター」の開所でした。

福祉部門から独立し、教育委員会との一元化した子育て支援課（設置当時は、「子育て支援室」）では、年々増加する待機児童解消のために保育所の環境整備など多くの事業に取り組んできました。

「大津町子育て・健診センター」は平成21年に開設。センターは、各健診・検診を行っているのはもちろんのこと、子育て支援の情報基地、親子の絆を深め合う場所として、今では、町の子育ての拠点として欠かせないものになっています。

そのような取り組みの中、平成22年3月、アクションプランの後期計画を策定しました。「希望（Hope）」「健康（Health）」「心（Heart）」「幸せ（Happiness）」の4つの項目に分類した施策に取り組む「ハピネスプロジェクト」は、大津町の子育てを見守ってくれます。

次世代育成行動計画の実施が、「大津町は子育てしやすいまち」として県内外を問わず、認知されることにつながったのでしょう。

町は少子高齢化なのか

よく少子高齢化の時代になったと耳にします。人口が増加している大津町は、少子高齢化なのでしょうか。

平成21年の人口推計によると、大津町の0歳から14歳までの構成比は、16・3％。全国平均の13・4％に比べると人口は上回っています。65歳以上の人口比は、大津町19・1％、全国平均22・6％と下回っています。総人口の推移や合計特殊出生率を確認しても、大津町は、少子高齢化が進んでいるとは言えないようです。

アクションプランも大津町の特徴を考え、独自の施策を計画して、進めています。大津町の子育ての日常を把握することで、多種多様な子育てニーズに対応することができているのです。

温故知新と温子知親

アクションプランの基本理念である『温子知親』。子どもの健やかな育ちを温かいまなざしで見つめ、子育て中の家庭を親しみの心で包み込み、楽しく子育てできるためには、保護者、地域、社会が一体となってみんなで支え合うことが大切です。

そのために、「すべての子どもと子育て中の家庭に、幸せと笑顔が満ちあふれるまち」づくりを進めています。

『温故知新』は、「故きを温ね、新しきを知る」と読みます。私たちは、大津の先人たちが築いてきた道の延長線上に立っています。それはこれからも変わらず、未来の子どもたちは、私たちの先にある道を進んで、生きていくのです。今と昔は、切っても切り離せないものです。これまで遺されてきたものと、これから町民が残していくものが、大津の子どもたちの未来を決めていくのではないでしょうか。

昔を知り、今を確認することは、大津の子育てに、本当に必要なものを知ることにつながり、子どもに温かいまなざしを向けることができる、親しみのある親になることになるでしょう。

「温故知新」と「温子知親」という言葉には、大津の子育ての思いすべてが詰まっています。

大津で「ファミリー・サポート・センター」の協力会員として 10 年以上活動している人がいます。「大津のばあば」と呼ばれるその人に、大津の今と昔を聞きました。

昔は頻繁にあった「世代間の交流」を大切にすることが、大切だと思っています。だから、私は「みんなのおばあちゃん」の感覚で皆さんと接しています。

40 年以上前に子どもを生んだときは、実家には、両親と兄夫婦がいて、みんなに子育てを手伝ってもらっていました。親と子どもだけじゃない子育ての交流が私を育ててくれたと思っています。

大津の良さは今も昔も「地域の人が温かく迎え入れてくれること」です。これからも今と昔の良さを生かしながら、子育てをしていってほしいですね。